

好評のうちに終了いたしました。ご参加ありがとうございました。

血管炎をもっと知ろう ver.7

コロナ禍で日常診療にも影響が出ている中でも、血管炎は発生しています。血管炎は血管に起こった炎症であり、血管の破壊、損傷による総称を示しています。好発する血管により、また発症からの時期により病態が異なります。現在は、大型、中型、小型血管炎に分類されていますが、発症に関しては不明です。感染が契機に発症してくる血管炎もあり、また ANCA の出現する血管炎もあることから、血管炎には好中球が深くかかわっていることが考えられます。

今回のセミナーでは、

【感染と血管炎】をテーマに、国立感染症研究所におられた鈴木和男先生にお話しいただきます。

【BVAS】に関し、理解を深めていただくため、湯村から、ANCA 関連血管炎の早期発見のためのツールとしての改めてお話しさせていただきます。

【ANCA と病態】というテーマで、高齢者に多い血管炎を中心に臨床経験豊富な東京都健康長寿医療センターの板橋美津世先生にお話しいただきます。

司会は、元厚労省：難治性血管炎研究班班長有村義宏先生にお願いしております。

なお、血管炎の診断の遅れは、適切な治療介入の時期を逸し、障害が臓器に残ることになります。血管炎の治療に関しましては、改めて以前からおこなってございました【血管炎の治療】のセミナーを企画したいと考えております。

日々でお忙しく医療に携わっておられると思いますが、是非ご参加ください。

一般社団法人腎臓血管加齢医療研究機構
理事長 湯村 和子